

( 月 日 ) 名前 (

次の文章を ていねいな字で 書き写しましょう。

喜助はその苦を見ているに忍びなかった。  
 苦から救ってやろうと思つて命を絶つた。そ  
 れが、罪であろうか。殺したのは罪に相違な  
 い。しかしそれが苦から救うためであつたと  
 思つと、そこに疑いが生じて、どうしても解  
 けぬのである。  
 庄兵衛の心の中には、いろいろに考へてみ  
 た末に自分より上のももの判断に任すほかな  
 いといふ念、オオトリテエに従うほかないと  
 いう念が生じた。庄兵衛はお奉行様の判断を  
 そのまま自分の判断にしようと思つたのであ  
 る。そうは思つても、庄兵衛はまだどこやら  
 にふに落ちぬものが残つていたので、なんだ  
 かお奉行様に聞いてみたくてならなかつた。  
 次第にふけていくおぼろ夜に、沈黙の人二  
 人を載せた高瀬舟は、黒い水の面をすべつて  
 行った。



(森鷗外「高瀬舟」より作成)